

年 組 () 名前

◆消防ではたらく人たちが、たかいはしごのうえで、みごとなわざをやってみせ、あつまつたみんなからはくしゅをあびています。

(2026年1月6日 読売新聞夕刊より)

新春恒例の東京消防庁の出初め式が6日、東京都江東区の国際展示場「東京ビッグサイト」で開かれ、消防職員や消防団員ら約2900人が参加した。出初め式は、消防職員の士気や市民の防災意識の向上を目的に、江戸時代に始まった。市川博三・消防総監は式辞で、昨年11月に大分市で180棟超を焼いた大規模火災などに触れ「災

はしご乗りの 青空に映える

害対応力を向上させられるよう全職員が一丸となって取り組み」と述べた。式では、ポンプ車やはしご車などの消防車両が会場をパレードしたほか、江戸の町火消しの伝統を受け継ぐ「江戸消防記念会」が華麗なはしご乗りを披露し、写真、片岡航希撮影、観客から拍手と歓声が湧いた。



【1】しゃしんにうつっているお正月のイベントは、なんとよばれているでしょうか。

※先生やおうちのひとといっしょにのみましよう。

【2】消防ではたらく人や消防車のえを、うらにかきましよう。

年 組 () 名前

サイン

◆ 2025年の世の中のありさまや、新年の抱負を表す漢字が各地で発表されました。

今年の漢字「熊」2万票超

今年の漢字に選ばれた「熊」(京都市の清水寺で)



(2025年12月18日 読売KODOMO新聞より)



知事が意気込み

(2026年1月8日 読売新聞宮城版より)

村井知事は7日、今年初めの定例記者会見で、恒例の今年の抱負を示す漢字を「実」と発表した。「5期20年間でまいた種を実らせるために6期目の中でも最も重要な1年になる。対話を通じながら着実に施策を実行、実践していきたい」と意気込みを述べた。

2025年の世相(世の中のありさま)を漢字1文字で表す「今年の漢字」が12月12日に発表され、「熊」が選ばれました。

「今年の漢字」は「日本漢字能力検定協会」(京都市)が1995年から毎年公募しています。

今年は18万9122票の応募があり、「熊」が最も多い2万3346票を集めました。クマに襲われて亡くなる人が相次いだことや、中国語で「大熊猫」と表記するジャイアントパンダが中国に返還されたことなどが理由です。

2位は価格の高騰が話題になった「米」、3位は高市早苗首相の就任や物価の高さなどをふまえた「高」でした。

【1】2025年の漢字に「熊」が選ばれた理由を、二つ書きましょう。

【2】左の記事では、宮城県知事が新年の抱負を1字で示しています。あなたは今年をどのような年にしたいですか。目標や決意を表す漢字を考え、その1字を選んだ理由を裏に書きましょう。

年 組 () 名前

サイン

外食各社 脱・紙ストロー

◆各社で進むストロー見直しの動き

日本マクドナルド	2022年、紙製ストローを導入。今年11月からストロー不要の容器を採用
スターバックス コーヒー ジャパン	20年、紙製ストローに切り替え。今年1月からバイオマスプラスチック製ストローに変更
オリエンタルランド	東京ディズニーランドなどで19年、紙製ストローを採用。20年以降、ストロー不要の容器に再変更
タリーズコーヒー ジャパン	19年にバイオプラ製のストローを導入。一部店舗では再生紙ストローを提供
モスフードサービス	ストローを短くしたり、バイオプラを配合したりして対応

日本マクドナルドは11月、冷たい飲み物用の容器に飲み口付きのフタを採用し、紙ストローの提供をやめた。ペットボトルをリサイクルした素材を使い、石油原料の使用量は削減する。

同社は2022年に紙ストローを導入したが、客からは「ふやける」「味が悪くなる」といった不満の声

が上がっていた。担当者は「ゴクゴク飲みやすいようこだわった。環境にも配慮している」と強調する。

スターバックスコーヒー ジャパンは今年1月、20年から提供していた紙ストローに代えて、植物由来のバイオマスプラスチック製ストローを導入した。

「モスバーガー」を展開するモスフードサービスも、20年からバイオプラを30%配合し、長さを1センチ短くしたストローを提供している。一部店舗で紙ストローを実験的に導入したところ、「口当たりなどが良くない」と不評だったため、紙ストローは導入しない方針だという。

プラスチック製品を巡っては、15年前後にプラごみが増え、魚の体内から見つかる事例が相次ぎ、使用を見直す動きが国際的に広がった。日本では22年、コンビニや飲食店などを対象に、プラ製品の削減計画策定を義務付ける法律が施行された。

こうした中、紙ストローは土壌や水中で分解される時間がプラスチックより短いとされ、代替品として導入された。しかし、米国で今年2月、トランプ大統領が「理不尽なキャンペーン」だとして紙ストローの使用推進を中止する大統領令に署名するなど、取り組みは減速している。

【1】紙製ストローの提供をやめる店が増えているのは、なぜですか。また、代わりにどのような対応がとられていますか。記事から読み取り、まとめましょう。

【2】ストローの必要性について、あなたはどのように考えますか。ストローがなかったら困ることなどを考え、裏に書きましょう。

◆プラスチック削減のために広がった紙製ストローを見直す動きが進んでいます。
(2025年12月29日 読売新聞朝刊より)

年 組 () 名前

サイン

あすへの
考

◆西洋と東洋はどちらが優位か。世界史を大局的に把握することで知られる歴史家イアン・モリス氏は、1万年以上前の氷河期の終わりにまで遡って考察しています。

【西洋と東洋】

揺らぐ米欧「民主主義は最良か」

西洋は西洋が世界を支配する根拠は、紀元前5世紀の都市国家アテネの民主制に象徴される、古典古代文明の卓越にあると主張してきた。ところが第2次大戦後、敗戦国の日本が高度成長を遂げて西欧を追い抜き、世界一の米国に迫る状況が発生する。西洋優位の鍵が古典古代の「卓越」とする限り、日本の躍進は説明できない。西洋優位の根拠が失われたのです。

私は英国の大学で古典古代を専攻して以降、1万年以上前の氷河期の終わりにまで遡って「西洋優位」について考えてきました。私の結論はこうです。西洋は東洋に対し、農耕で約2000年、都市造営で約1000年、貨幣製造で約2000年先んじた。農耕の起源は「地中海農耕文化」。東洋に先んじた理由は古典古代の「卓越」ではなく、地理的条件だ。農耕で先行した約2000年の「時間差」をもとに西洋は西暦6世紀までは優位を維持した。

6世紀中頃、ペストが東西世界で猛威をふるいます。いち早く復興したのは東洋（中国）です。隋の時代の7世紀に運河を整備します。それ以前の世界の主役はローマ帝国で、地中海交易で繁栄した。隋の運河系統は私に言わせれば「中国の地中海」。それを動脈として中国は発展し、以後1200年ほど東洋（中国）が西洋に対して優位を保ち続けます。中国の造船技術や火器は西欧を凌駕していた。明の時代の15世紀前半に南海を大航海した大型商船の規模（全長約150m）は、15世紀末にコロンブスが座乗してアメリカ大陸に到達した帆船サンタ・マリ

ア号（同約24m）よりも格段に大きかった。世界の交易の主舞台は「海」から「大洋」に移ります。ただ明は対外貿易を制限する。中華帝国は既に豊かであり、西欧やアフリカと交易しても大きな利益は望めないと判断した。これが再度の優位逆転をもたらすことになります。中国から学んだ西洋で大型帆船が建造され、大西洋を渡った先の南北アメリカが新たな富の源泉になる。産業革命を起こした英国が大洋を支配し、北米を中心に植民地を広げ、グローバル化を推進します。

英国支配の世界秩序「パックス・ブリタニカ」は1914年に勃発した第1次大戦で崩壊します。米国が最強国になりますが、米国内導の国際秩序が形成されるのは第2次大戦の後です。

国民国家を枠組みとする近代民主主義は2世紀以上続いてきた。国家経営上、有効だったからです。米欧の民主主義陣営は第1次大戦、第2次大戦、対ソ冷戦にそれぞれ勝利しました。

しかし、米中対立の時代を迎え、米欧で「民主主義は今日も最良の統治制度なのか」「多数決に縛られることなく、強力な為政者が政策を断行する方が有効ではないのか」との自問が続いています。ポピュリズムの台頭やトランプ現象はその表れでもある。

米国が相対的に衰退する中で起

「強力な為政者が政策を断行する方が有効では」と自問

きたのが2022年のロシアのプーチン政権によるウクライナ侵略でした。プーチン大統領は核兵器使用の可能性さえ示唆した。「米国の抑止が利かない」「米国は頼りにならない」との判断が定まれば、「自衛」を理由に核は拡散するでしょう。

核兵器は使用しないという「不文律」が揺らぎ始めています。例えば米軍筋は、インドとパキスタンがそれぞれ保有する核兵器を原爆にとどめ、数百倍の威力を持つ水爆を開発しないのは、原爆使用の可能性を考えているからだ、と指摘しています。

強力な為政者を待望する熱が高まる一方で、核戦争の脅威が増している。そうした中でAI革命が進行しているのです。AIは自ら学習し決断するエージェント（行為主体）です。意思決定の一部をAIに委ねる政府も出てきている。AIは早晩、人類の知能を超えるでしょう。

現代国家で、誰よりも頭脳明晰、かつ無謬の為政者は存在しない。その場合、本来なら民主主義の出番となるのですが、人知に勝るAIが登場すれば、「神の子」のような役割を果たすでしょう。人々はAI「王」の命令に喜々として従うのかもしれない。

(2025年9月28日)

読売新聞朝刊より



歴史家 イアン・モリス氏 65

【1】東洋が西洋に対して優位を維持していたとモリス氏が考える時代についてまとめましょう。

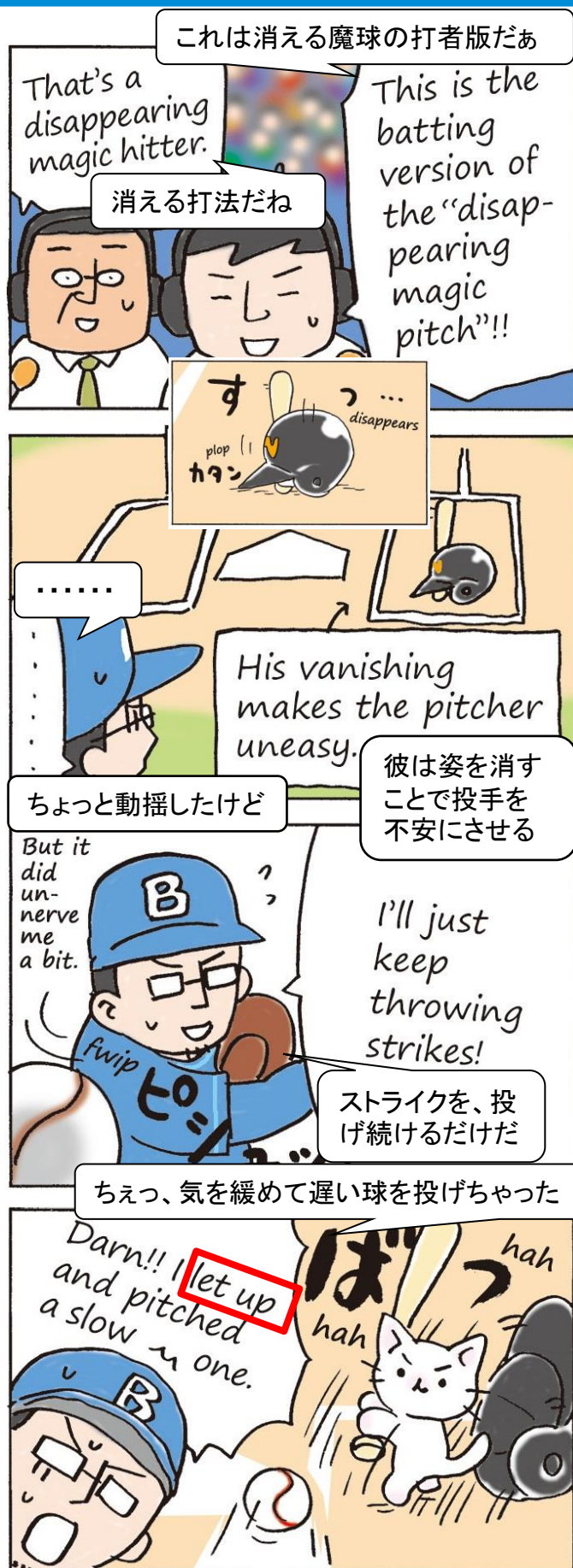
Ian Morris 英国出身の歴史家、考古学者。米スタンフォード大学教授。歴史を大局的に捉え、歴史の進展の主な要因を地理とする説で知られる。主著は「人類5万年 文明の興亡」（未訳）。考古学者としてはギリシャとイタリアで発掘調査を指揮した経験がある。

【発展問題】今後は西洋と東洋のどちらが優位になるか、あなたの考えを裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年 組 () 名前

サイン



◆大きなヘルメットに隠れるミー太郎の「消える打法」。相手投手は動揺を隠せず、ままと緩い球を投げさせられてしまいました！

レット アップ

let up

弱まる、気を緩める

本来は「雨や雪、嵐がやむ」といった意味でよく使います。ここでは、勢いを弱める、気を緩める、といったニュアンスです。

★あわせて覚えよう★

レット ワンズ ガード ダウン

■let one's guard down

油断する。警戒を解く。気を許す。

■slack off 力を緩める、怠ける。

単語帳

vanish: 見えなくなる uneasy: 不安な unnerve: 狼狽させる

★なぞってみよう★

let up

slack off